

第4章

まちづくりの課題

4-1 まちづくりの課題の整理

第4章 まちづくりの課題

4-1 まちづくりの課題の整理

(1) 分野別のまちづくりの課題の整理

「町の現況・特性」を踏まえ、分野別のまちづくりの課題を整理しました。

＜まちづくりの課題＞

分野	まちづくりの課題
人口	● 将来の人口構造を見据えたまちづくりの推進（人口減少、少子高齢化への対応） ● 古い住宅団地内や既存集落地などにおいて、高齢者が安心して暮らし続けられる居住環境の形成 ● 陽なたの丘など、住宅地開発により一時的に増加している年少人口への対応
土地利用	● 名古屋都市圏のベッドタウンとしての良好な住宅地環境の維持 ● 古い住宅団地の再生、高齢居住者などの生活利便性の確保 ● 地域特性に応じた土地利用の推進 ● 今後増加する空家などへの対応 ● 市街化調整区域の豊かな自然環境や景観資源の維持・保全 ● 災害の危険性に配慮した土地利用の推進（規制・誘導）
産業	● 身近で買い物できる商業環境づくり ● 既存の工業（操業）環境の維持・改善 ● 高い交通利便性を活かした新たな産業（企業）の誘致 ● 農業の活性化 ● 地域資源や立地特性を活かした観光の魅力づくり
道路・交通	● 慢性的な交通渋滞の解消や未整備都市計画道路の早期実現 ● 狭あい道路の改善など住民が安全に利用できる生活道路の整備 ● 鉄道や循環バスなど既存公共交通の利用環境の維持や更なるサービス向上 ● 巽ヶ丘駅をはじめとする名鉄河和線各駅前の環境整備
公園・緑地	● 居住地周辺での身近な公園の整備（都市公園の未整備エリアの解消） ● 既存の都市公園の適切な維持・管理の推進
河川・下水道	● 河川の治水対策など防災安全性の向上 ● 河川の自然環境・景観資源の維持・保全、レクリエーションとしての活用促進 ● 下水道施設の適切な維持・管理の推進
公共公益施設	● 人口動態や行財政状況に配慮した公共公益施設の適切な維持・管理、配置・整備
自然・環境	● 阿久比川など町を代表する景観資源の維持・保全 ● ホタルなど、生物生息環境への配慮・保全 ● 自動車に依存しない、環境にやさしいまちづくりの推進
防災	● 建物の防火や耐震化の促進 ● ハード・ソフト両面での防災対策の充実 ● 災害に強いまちづくりの推進（事前防災、国土強靱化への対応）

（２）今後のまちづくりの課題と取り組みの方向性

分野別のまちづくりの課題と、上位・関連計画の位置づけや近年の社会経済情勢、住民意向などを踏まえ、今後のまちづくりの課題と取り組みの方向性を整理しました。

《今後のまちづくりの課題と取り組みの方向性》

①人口減少と超高齢化社会への対応

本町の人口問題に備えるため、以下のまちづくりに取り組む必要があります。

- 身近な生活圏への必要なサービス施設の充実など、高齢者や子育て世帯が暮らしやすい居住環境の形成
- 既存の公共交通サービスの維持・充実
- 公共公益施設など、既存ストックの適切な維持・管理・有効活用の促進 など

＜住宅団地（陽なたの丘）＞



＜阿久比町循環バス「アグピー号」＞



②知多半島中央部に位置する立地特性の有効活用

本町の強みである広域利便性の高い立地環境を活かし、以下のまちづくりに取り組む必要があります。

- 知多半島道路阿久比インターチェンジが立地する広域交通利便性を活かした産業の振興
- 知多半島の中央部に位置する立地特性を活かした観光・交流の促進
- 6次産業化の推進など、地域資源を活かした農業の活性化 など

＜花かつみ園＞



＜矢勝川沿いの彼岸花＞



③豊かな自然環境・景観資源の維持・保全

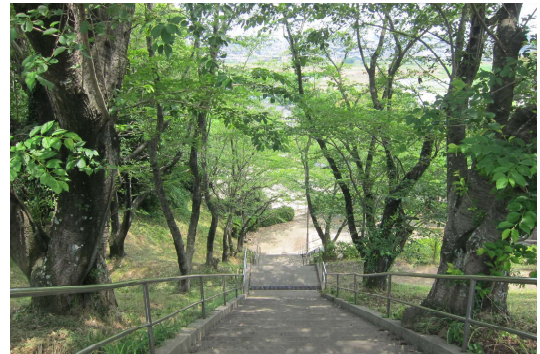
本町の豊かな自然・景観環境を保全・継承するため、以下のまちづくりに取り組む必要があります。

- 阿久比川や田園、板山高根湿地など、豊かな自然環境・景観資源の維持・保全と有効活用促進
- 市街地や集落地の生活のうるおい・やすらぎの場となる緑の確保
- 自然環境と共生した低炭素・循環型社会への転換 など

＜板山高根湿地＞



＜植公園＞



④自然災害への対応・対策の強化

頻発する自然災害から住民の命、財産を守るため、以下のまちづくりに取り組む必要があります。

- 河川氾濫や急傾斜地の崩落など、大規模自然災害への事前対策・準備の強化
- 安全・快適な道路環境の整備
- 市街地や集落地の防災・避難の場となるオープンスペースの確保 など

＜阿久比川＞



＜都市計画道路矢高横川線＞

